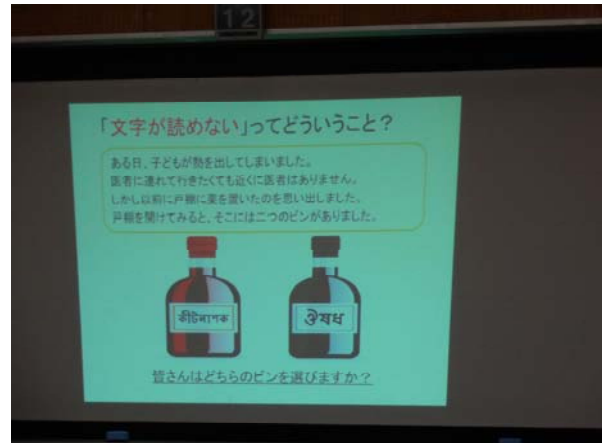
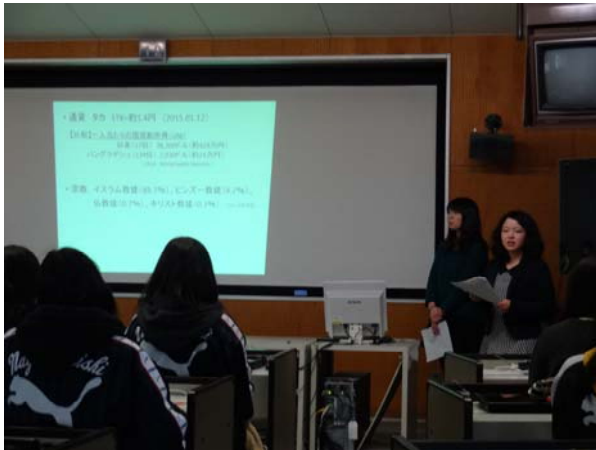


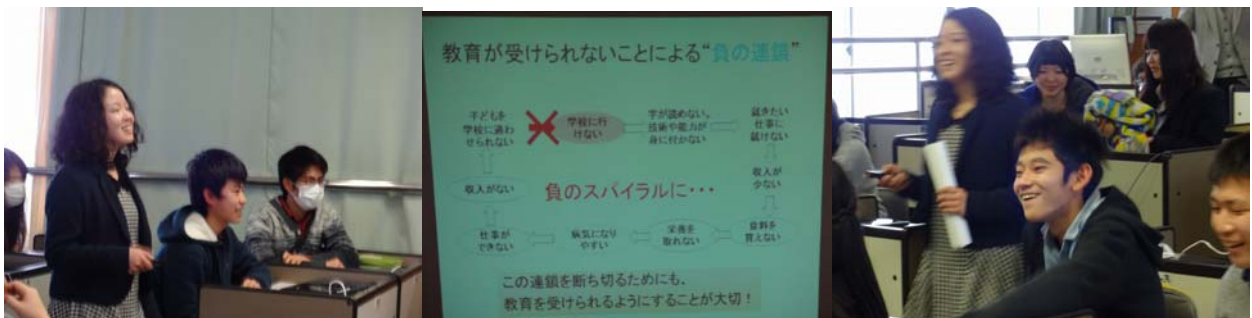
2015 国際教養科 NEWS 1月(3)

「 Bangladeshにおける国際貢献について」 清泉女学院大学との高大連携の取り組み



1/15 (木) に、長野市にある清泉女学院大学人間学部から、和田順一先生及び学生2名が本校に來校し、国際教養科2年生41人を対象に講演をしていただきました。同大学では、学部長の室井美稚子先生と和田先生のコラボによるツーリズム演習の授業をベースに、Bangladeshでの小学校建設事業に賛同し、現地の子どもたちに届ける文房具等を集めています。今年度は、2月8日から約10日程度現地を訪問し、届ける予定です。そこで、Bangladeshの様子を紹介し、支援の輪を広げるために本校を訪れました。

中心になって、講演をしていただいた同大学4年生の池田美幸さんと丸山紗希さんは、パワーポイントを有効に使い、とてもわかりやすくお話をさせていただきました。またクイズを出してペアで考えさせたり、時には高校生とインタラクショントり、生徒の反応を確かめながら、明るく、意欲的にお話を進める姿はとても立派なものでした。このような聴衆を引きつける素晴らしい発表は、特に卒業論文プレゼンテーションコンテストを控えた本校2年生にとっては大きな刺激になり、学ぶ点が多かったようです。また、今年度、外務省のODAの出前講座等で学習したことや、Com.LL授業での模擬国連のリサーチなどで学んだ事も、Bangladeshの現況を理解するのに役だったようです。



講演後、国際教養科2年生のクラスは、Bangladeshへの支援を決め、ホームルームで全クラスを回って各家庭で使用していない文房具やリコーダーなどを集める呼びかけを始めました。



「異文化間コミュニケーション」 信大教育学部との高大連携授業② 小池先生と信大生4名来校

1/16 (金) に、本校卒業生でいらっしゃる信州大学教育学部 小池浩子先生に、国際教養科1年生を対象に「異文化間コミュニケーション」というテーマで授業を行っていただきました。今回の授業では、トランプのゲームでグループごとにルールを変えることによって、異文化と接触し、交流した時の心理状態と「異文化」の人たちとの対人関係について擬似体験しました。多くの生徒は、授業の感想に、「言葉の違いや自分の中に思っている固定観念で、異文化の人と接触、交流すると、大きな混乱がおこることがよくわかった。相手のことをもっと考えたり、どうしたらいいのかをもっと考えて行動したいと思った。」(M・S)と書いてあり、トランプを使ったシミュレーションを通して、異文化理解の基本を学びました。体験型授業なので、とても印象に残ったようです。



今年度、小池先生に異文化理解の授業をお願いするのは、昨年の10月(対象は国際教養科2年生)に続き2回目になります。今回は小池先生のゼミの院生等も4名来校し、クラスに入って高校生と交流していただきました。さすがに教師を目指す学生さんだけあって、授業中は1年生の生徒に上手にアドバイスし、本校生徒に溶け込んでいただき、中には一緒にゲームに加わってくださる学生さんもいらっしゃいました。1年生にとっては、良き先輩として、とても良い刺激になり、本当にありがたくうれしく思いました。西高のすぐ近くに、素晴らしい大学生がいるので、さらに高大連携が深められればと強く思いました。

「文化が違う人と関わる時は特に自分が思っていることと相手の思っていることが全て一致しているとは思わず、相手には相手の考えや習慣があることを意識しながら、関わっていかないといけないと思いました。」(H・H)「ゲームのやり方が食い違ったときに、まず最初に私が思ったことは、“ちゃんとルール覚えたのかな?”と相手を疑ってしまったので、“どうしてやり方が違うのか”と、自分が正しくて相手が間違っているという考えを止められるようにしたいです。日本人の間でもそれぞれ習慣が違うとのことだったので、“こういうやり方もあるんだ”と思えるように、少しずつ見方を変えていきたいです。今日はありがとうございました。(T・M)